

# 全国組織のウィードコート工法協会が設立

## 会長に松岡伸年氏 (建設)

道路などで伸びた雑草は視界をせきぎり危険だ。「雑草の発生を防ぎ、通行の安全を確保し、社会に貢献したい」。そんな思いから開発されたのが、「ウィードコート工法」。

試験施工を重ね、9年間で約230kmの施工実績を挙げ、2013年度からはネクスコ中日本のリフレッシュ工事で採用されるまで

「協会設立のきっかけから普及活動に取り組んできた」と聞きたい。

「施工代理店を全国から募集

「全国の道路において管理者 するとともに、三重県 新湊町、富山県、長野県、静岡県、愛知にも追従する2液常温硬化型の

を取り除く、エンドレスな作業 県、兵庫県、徳島県、鹿児島県

をシーズン行事として

て実施している。車道や歩道で伸びた雑草は視界の妨げにもなり、安全面での課題も多いとの建設業者11社から賛同をもらい、この課題に向き合い、ウィードコート工法協会を設立した。

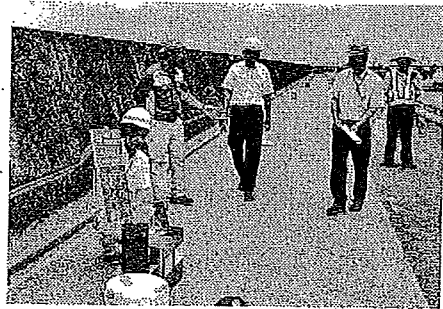
「ウィードコート工法を08年に開発し、同年4月に国土交通省の新しい技術活用システム「NETIS」に登録して全国への

になった。防草対策分野の新たな進展を広く社会に貢献することを目的に「ウィードコート工法協会」が8月26日に誕生し、会長には

松岡伸年社長が就いた。「さらなる技術の向上を図り、全国に普及させたい」と語る松岡会長に、これまでの経緯や今後の展開などについて聞いた。

(聞き手は三重支局北勢通信部 徳山貴史)

# 9年間で約230kmの施工実績



現場見学会の様子

方法と初期コストを比較した場合、若干の割高感は正直あるが、ランニングコストで考えたら満足してもらえ。普及することでコストパフォーマンスは向上する。施工場所については公共の道路だけでなく、マンションの敷地や商業施設などでも効果は変わらないので、民間需要も十分に期待できる。

「今後の協会活動について

「さまざまな社会資本整備が進む中、道路という重要なインフラストラクチャーにおいて環境・景観・安全に配慮したのがウィードコート工法。本協会は、この工法の全国普及と技術の向上を推進させ、防草対策の新たな発展と広く社会に貢献することを目的としている。普及活動、技術指導、試験施工、研修会、講習会などを実施し、協会員の増強を積極的にやりたい。早速、協会設立の翌27日には、三重県川越町内で発注官庁を招き、同工法の施工現場見学会を開催した」

トを塗布し、雑草の発生を防止抑制する。これにより、視界が確保され通行者の安全が保たれる。色はグレーとホワイトのほか、特注品としてグリーンなどの色も対応可能で、周辺景観を損なわない。長期間の抑制効果で維持費の削減、建設廃棄物としてリサイクルが可能など、道路以外でも、勾配がある法面

「課題はコスト。現行の除草

# クローズアップ



松岡 伸年 会長

# 全国11社で工法普及活動を展開

※ウィードコート工法協会本部事務局、三重県川越町鳥崎新田51-1、電話059(340)3840。会員は松岡建設(三重県川越町)、中井土木(三重県松阪市)、エコワーク(静岡県島田市)、大給組(兵庫県姫路市)、名阪商事(三重県川越町)、ナルセコーポレーション(愛知県安城市)、小野組(新潟県胎内市)、姫野組(徳島市)、桜井建設(富山県黒部市)、アース化研(鹿児島県薩摩川内市)、ヤマウラ(長野県駒ヶ根市)